

立憲民主党・意見交換会でも 高齢者負担割合誤表示問題を報告



協会からの報告を受ける立憲民主党議員団(左)

茨城県保険医協会は10月3日(火)、立憲民主党茨城県総支部連合会の意見交換会に出席。意見交換会は県民の生活向上や安心して生活できる社会の実現に向けて、各団体の意見を反映させるために開かれた。当日は、青山

大人衆議院議員、小沼巧参議院議員、堂込麻紀子参議院議員、設楽詠美子県議会議員、玉造順一県議会議員らが出席。

保険医協会からは、医療機関窓口での高齢者負担割合誤表示問題について県内医療機関の実態を報告した。また、マイナ保険証利用状況について情報提供を行い、現在、県内のマイナ保険証利用率は5～6%程度と低い利用率にあること、トラブル続きの中で保険証が廃止されることは、医療機関窓口でのトラブル増加につながる可能性が高いことを伝えた。

議員団からは、この状況での保険証廃止は拙速すぎるという声や、指定難病の申請に関してはマイナンバーカードを用いることでその期間が短縮されるといった声が出された。

最後に、今後も定期的な情報交換を行っていくことが確認され、意見交換会は終了した。